



卓 話



NO. 939 2007年2月8日
東京四谷ロータリークラブ

大学・地域協働による学生まちづくり プレゼンテーション大会 in 四谷 「四谷再発見～遊路四谷～」

工学院大学大学院工学研究科修士 梨子田 勉氏

近年、大学・専門学校などの教育機関が、地域や社会とのつながりをより一層重視し、まちづくりや地域活性化の現場で、大きな役割を担いつつある。一



方、各地域では、これまでの商店街活性化や地域活性化の方策では、十分に対応できない課題が散見される。東京商工会議所ではそのような状況に着目し、教育機関と連携したまちづくり支援策の検討を進めている。このような検討の一環として、東京商工会議所が主催となり、「大学・地域の協働による学生まちづくりプレゼンテーション大会 in 四谷」が実施された。今回のプレゼンテーション大会では、四谷地域の現状把握・課題抽出を行い、地域が目指すまちづくりの姿を提示することが求められた。このような課題に対し、私たちは、地形図や文献資料を用いた四谷地域の歴史的変遷や景観などのまちなみの調査を行い、四谷地域の特徴・現状を分析した。

四谷地域の特徴として第一に挙げられるのが江戸時代からの歴史といえる。四谷地域が発展し始めたのは、天正18年（1590）に徳川家康が江戸城に入城して以降である。江戸に入国した家康は、江戸城の西側の大地（山手）を開発し、武家屋敷地帯とした。そして、現在の新宿駅周辺を通り府中へと続く旧国府街道（甲州街道）の四谷大木戸（四谷4丁目）あたりまでの各所を、譜代大名や鉄砲関係の旗本・同心たちの屋敷地として与えることで、西側からの攻撃に備える体制を整えた。以降、徳川家は家康・秀忠・家光の3代にわたり、江戸城の改築工事を行い、この整備において麹町などの城内にあった町屋や寺院・寺社が四谷や牛込などに移転されることになった。明治になると、四谷にあった幕府直轄の武家地、寺社地は新政府の施策により土地、屋敷を召し上げられ、整理された。そうした状況の中で栄え

てきたのが現在の荒木町界隈である。ここには、美濃高須藩松平家の屋敷があった。この屋敷には大きな池があり、明治に池が公開されるとその周辺に料亭が集まり歓楽街が形成される。明治27年に甲武鉄道中央線（現JR中央線）、明治34年に東京都市電が開通し交通機関がますます発展し物資の集散拠点となることで、繁華街としての賑わいをみせる。

大正2年には四谷見附橋が開通したことで、甲州街道は現在のようにまっすぐに麹町に直進できるようになるなど、四谷駅前周辺の整備が進む。大正12年の関東最震災によって、日本橋・神田・浅草などの下町は壊滅状態となったが、四谷・牛込・小石川などの山の手地域の被害は軽微なものであった。このため、下町の被害者が山の手方面に流入し、山の手地域の人口増加が著しかった。山の手の人々は物価が安く繁華街として発展していた四谷に集まるようになり、四谷のまちは賑わいをみせた。

第二次世界大戦の空襲では、四谷地域の約9割が焼失してしまうが、戦後の復興と周辺幹線道路の整備が進み、昭和34年に地下鉄丸の内線が開通、平成8年に南北線が開通することで、四谷の交通機能が発達する。また、昭和39年に開催された東京オリンピックは四谷地域にも大きく影響を与えた。マラソンコースに当たる甲州街道、オリンピック道路と呼ばれた首都高速4号線も四谷付近を通過していた。それにあわせて、四谷地域を通る甲州街道の拡幅が行われた。近年では幹線道路沿いはオフィスビルが増加傾向にあり、それ以外は集合住宅が増加傾向にある。

このような調査・分析から、「歴史を活かしたまちづくり」、「新しいプログラムの挿入」という2つの基本理念をもとに提案を行った。「歴史を活かしたまちづくり」では四谷の特徴である歴史的資源を活かし、散策路の整備やガイドマップの作成を提案している。2つめの「新しいプログラムの挿入」ではオフィス、住居、商業がとなりあう状況に対して、地域内の交流の場の創出、また、地域外からの集客や文化の現代的な発展を目的として、アートを活かしたまちづくりを提案した。また快適な歩行空間の創出を目的として街路のモール化を提案した。それぞれの提案を四谷地域の特徴・現状に即したか

たちで実施することで、まちの魅力を活かしたまちづくりを目指している。

今回のプレゼンテーション大会では日本大学、明治大学、工学院大学、専修大学、産業能率大学、法政大学、東京富士大学の7大学10チームから提案があり、提案書の提出や発表などの審査を行い、新宿区長賞を得ることができました。地域の現状把握・課題抽出を行

い、地域が目指すまちづくりの姿を提示することが求められた今回のプレゼンテーション大会において、実際にまちに出て調査を行い、グループで分析し、一つの提案書に取りまとめる作業はよい経験となりました。最後になりましたが、今回の調査にあたって四谷地域の方々をはじめとする多くの方に協力していただいたことにお礼申し上げます。